
とある学校でスポーツテスト！

東京バナナ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

とある学校でスポーツテスト！

【Nコード】

N5762M

【作者名】

東京バナナ

【あらすじ】

差出人不明のざっくりした内容の手紙を受け取った戦士たちがバトル！？美琴はちょっと素直なかんじにしてみました。独断と偏見で完全ランキング付けします…

No.1：手紙がきたよ（前書き）

選ばれた精鋭たちです。

No.1：手紙がきたよ

拝啓：皆様へ

暑さが身にしみる季節になりました。このお手紙を受け取った皆様は7月7日にこの地図の場所へ集合してください！絶対。

PS：すごく動きやすい格好で来てくださいね！

～上條当麻宅～

当麻「何か変な手紙だなあ。これはきつと不幸の手紙だあ！上條さんはこの内容を必死で書き写す作業に入るから、話しかけるなよー！」

インデックス「とーま！これわたしにもきてるよ。わあわたしに手紙がくるなんて。とーまこれは絶対行くべきだよ！絶対って書いてあるんだから絶対なんだよ！」

当麻「なんか…嫌な予感がする…。」

～常磐台中学女子寮～

白井黒子「お姉様。手紙見ました！？」

御坂美琴「見た見た。私パスしよっかなあ…。なんかめんどくさくない！？それより黒子プールでも行こうよ！」

黒子「お姉様ダメですよ！絶対って書いてますのよ。それに、この学校先月プールを改装してウォーターライダーとか作ってましたの。きつとそれで今回呼ばれたのでは…はっ！お姉様…水着で行きますわよ！」

美琴「えっほんきで！？」

黒子「動きやすい格好つてそれしかありませんの！水着に勝るものは下着だけですのよお姉様！」
美琴「そっか。そうよね！」

「カエル顔の医者がいる病院では」
カエル「君たちに手紙だよ。」

一方通行「はアなんだア！めんどくせエ。こんなン行くヤツアいねエんだよ。」

打ち止め「あつてもミサカにも同じ手紙きてたみたいだよって、ミサカはミサカは言ってみる。」

一方通行「ああお前にかア？」

打ち止め「ちがうよ！確か10032号につてミサカはミサカは訂正してみる。」

一方通行「……。まさかまた実験なアんて……。まアどっちでもいいけど、オレあパスだア。体調わりイ。」

打ち止め「じゃあ代わりに行ってきますつてミサカはミサカは暇してるんじゃないけど……」

一方通行「百%暇だろオが！」

「その病院の違う部屋」

ミサカ10032号「これは何ですかとミサカはつきつきしながら言います。」

手紙「ラブレター」という知識をどこかで偶然拾ってきたのか……。

10032号「明日何着て行けば良いのか……ミサカは……服がありませんのでお姉様に……お姉様のセンス……はうわ！……頼らねーよとミサカは冷静になります。」

一人で何を言っているんだ。

「とあるファミレス」

麦野沈利「呼び出したぁいい度胸じゃねえか！ぶっ殺してやる！」

絹旗最愛「いやいや！これ超普通の手紙ですよ。その意気込み超ムダになりますよ！」

麦野「そーなの！？」

絹旗「超バ力ですか…？」

「とある学生寮」

青髪ピアス「なに！？この手紙は…まさかの丁寧な呼び出し…これは女の子に間違いナアイ！！動きやすい格好…はっ裸か！？」

「イギリスとある女子寮」

神裂火織「なんですか！？日本のとある学校に…なんですか！？」

もう1回手紙を読み返す。

神裂「えっなんですか！？何回読んでも理由がないんですけど…やっぱりなんですか？……わからない。わからない。」

「とある施設」

テレスティーナ木原「ぶぁーか！ははっ！」
手紙をビリビリに破いた。

No.1：手紙がきたよ（後書き）

読んで頂きありがとうございます。
感謝です！

N o . 2 : 当麻以外女だらけ！？謎の集まり（前書き）

校庭での出来事です。

No.2：当麻以外女だらけ！？謎の集まり

きたる7月7日。

かなりの晴天だ。例えるならば、そうスポーツ日和。

校庭には人が集まっており、ざわざわと騒がしい様子。

そこへ、Ｔシャツに短パンの当麻とインデックスはやってきた。

当麻「はあ。結局来たけど…なんか知ってる顔結構いるな。」

インデックス「ほんとだね。でもなんか格好といい、全然まとまりない人たちだね…。」

その中でも、ダントツで騒がしいよく見る2人組を発見。

美琴「ちよつと黒子！水着の人なんていないじゃないの！」

白地に青の水玉模様のビキニを着た美琴は顔をピンクに染め、両手を胸の前にあて落ち着かない様子。

黒子「お姉様！恥ずかしいと思うから恥ずかしいのですわ！今日は絶対プールですもの！プール日和ですわ！なので堂々としていればいいんですの。」

美琴「そ…そうなのかな！？」

美琴は少し照れている様子で黒子のほうを見た。黒子は、幅5cmくらいの布を胸に1週巻き付け後ろでリボンを作り、下はほぼＴバックで犯罪寸止めの露出姿で堂々としていた。

美琴「あんたは、乙女の恥じらいを持てえ！」

黒子「ぎゃふーん！」

頭を小突かれたる黒子。

当麻「おーい！美琴！」

美琴「な…あんたも呼ばれたの！？ちよつと人のことジロジロ見な

いでよ！」

当麻「見てないっつの！でもまたお前何で水着なんだあ？」

美琴「う、うるさーい！」

当麻「まあでも似合ってるからいーんじよねえの！？」

美琴「え！ほんとくに！？あんたもそう思ってくれる！？そ、そう

！？きやつヤダ！…」

頬を赤くし美琴のテンションが超高速で跳ね上がる。

インデックス「短髪がなんかおかしいことなってる。」

当麻「げっ！白井！？その格好…。」

黒子「なんですの！？」

黒子は眉間にシワをよせ口を尖らせたまま無言で睨み、当麻に何も言わせない。

打ち止め「あー！あの時の人って、ミサカはミサカは声をかける。」
当麻「おーあの時の小さい子と、お前はミサカ妹だな！なっその格好は…。」

10032号はフリフリのワンピースであるも至るところに金属が付着する黒ベースなメタリックな衣装：ゴスロリの格好をしていた。
10032号「最先端の動きやすい格好で来ました、とミサカは絶対の自信を持ちます。」

当麻「おい！上條さんにどうツツコンで欲しいんだ！？さすがの上條さんも困っちゃうぞ。」

10032号「あなたが手紙をくれたのでは？と…」

当麻「ちげーよ…。」

10032号「ふえ…！」

少し悲しい表情になるミサカ妹であった。

神裂「お久しぶりです。」

後ろから声がする。

当麻「あれ！？神裂も呼ばれたの？」

神裂「はい。イギリスから来ました。」

当麻「イギリスから！？ばかっ！今日絶対にくだらない用事だぞ！
ってかお前までなんだ！？その格好は…。」

神裂はトラ柄の短いチューブトップにパンツくらい短い短パン…その国民的アイドルであるラムちゃんのコスプレをしていた。

神裂「だって…土御門が…。」

神裂は顔を真っ赤にする。

No.2：当麻以外女だらけ！？謎の集まり（後書き）

読んで頂きありがとうございます。

No.3：青髪ピアス（前書き）

すみません（T・T）

No.3：青髪ピアス

――な…何やあ！この豪華なメンツはあ！――

――ロリっ子が二人…どっちも可愛い…――

――あの水着の子達もあの未発達さ…これから先すごい可能性を秘めている――

――あのゴスロリはあ！…なんかビシバシ攻めめられたい――

――何よりあのラムちゃん！めっちゃ可愛い…年上のお姉様のお色気ムンムンやん――

――でもここは平常心で上やんに話しかけるんだ――

青髪ピアス「そーすれば…あの輪のなかに自然に入れるんやあ！」

青髪ピアス「や…やあ上やん！元氣そうやなあ！？」

当麻「おう…ってお前その格好…」

当麻は、青髪ピアスの格好を思わず二度見する。青髪ピアスはブリーフ一枚だった。そのブリーフには、キティちゃんが前に3匹後ろに5匹いた。

ラストオーダーがそれに食いつく。

打ち止め「わあ！可愛い可愛いってミサカはミサカはツンツンしてみる。」

ラストオーダーは無邪気にキティちゃんをつつく。

「うお……」

青髪ピアスの顔が真っ赤になる。

打ち止め「オラオラ！やるのかやらないのかあってミサカはミサカは無邪気なネコにケンカをふっかけてみる！」

青髪ピアス「うつつ……」

打ち止め「あれっ。」

青髪ピアス「あなたに決めました。ボクとお付き合いしてください！」

当麻「おら！ガキに反応してんじゃねーよ！上條さんはなんかセツナイぞ。ううーお前は帰れー！！」

青髪ピアスは、公然ワイセツ罪と女兒誘拐未遂でアンチスキルに連行される。

青髪ピアス「上やん！ひどいやーん……！」

当麻「ふー。これでよしと。しかしほんと今日は何の集まりだあ！？」

少し離れた場所に、当麻と同じ思いの人がいた。

麦野沈利「なんだ……。この訳の分からない集まりは……」

「ー今日何で呼ばれたんだろ……帰ろう……。あっレールガン。なんだああの格好はあ！？せつかくだから野次って帰るか……」

麦野はレールガンの方へ近づき声をかける。

麦野「オイ！レールガン。てめえそんな格好で何してんだあ！ガキが盛ってんじゃねーよ。」

美琴は声がする方へ視線をやる。

美琴「げっ！あんたは！？……ってその格好なに！？」

麦野はレスリングの日本代表の格好をしていた。しかも男子のほうだ。

美琴「このハレンチばあ！着替えて来いっ！」

美琴の方が顔を真っ赤にする。

麦野「なんだとお！これ動きやすいだろおがあ！今決めた。絶対着替えてやんねえ！」

美琴「ばかつ…アンタのために言ってるのよ…。こんなとこで意地張らないでよ！」

ピーー！

その時笛の音になる。

「全員集合！」

No.3：青髪ピアス（後書き）

読んで頂きありがとうございますw(。o。)

No.4:スポーツテストするじゃん(前書き)

よろしくです！

No.4：スポーツテストするじゃん

黄泉川愛穂「スポーツテストするじゃんよ！」

月詠小萌「ですよ！」

運動場には、大小2人の先生がいる。

上條当麻「えー！俺先月やってますけど！？」

インデックス「とーま！スポーツテストって何なの！？なぜかわくわくする！」

運動神経ゼロのインデックスがなぜか張り切る。

ミサカ10032号「ス…スポーツテスト…。なぜ大勢いるミサカの中でミサカが選ばれてしまったんだろう…とミサカは自分の不幸さに絶句します。」

当麻「いや、上條さんの日常に比べたらそんなの幸せの分類に入るよー！」

神裂「スポーツテスト？なんでしょうか…。ラムちゃんわかんない！」

当麻「なにがラムちゃんわかんないだ！上條さんは調子に乗ることを絶対に許しませんからね！」

美琴「スポーツテストかぁ。なんだか懐かしいわね。」

黒子「そーですわね。でもお姉様が一位に決まっていますの！水着ですし。ぐへへ。」

美琴「キモー！」

麦野「レールガンお前やるの？？」

美琴「あたり前じゃないの！なんなら勝負しちゃう？」

麦野「上等じゃねーか！やってやる！」

当麻「美琴…お前ほんと勝負好きだなあ…。あれ！？あそこにいるのアクセラレータ！？」

打ち止め「あーほんとだ！来てくれたんだあつてミサカはミサカは喜んでみる！」

一方通行「けっ！なにかと思えばアそんなくだらないことかよオ。」
打ち止め「まあまあ！いーじゃんいーじゃん」とミサカはミサカはなだめてみる。」

一方通行「はア…」

黄泉川「あー諸君！今日は特別にテレスティーナ大先生も参加してくれるそうだ。先生どうぞこちらへ！挨拶お願いします。」

ウィーンガシャン。ウィーン…

美琴「なんでパワードスーツ着てんのよ。勝つ気満々じゃない！」

ウィーン。ガシャン。

テレスティーナはマイクに近づく。

テレスティーナ「ふふふははー！ぶあーーーーーかー！」

「！ー！」

彼女のことを知らない人たちはぶっ飛んだ目にびびる。

黄泉川「ヨシ！挨拶が終わったところで早速始めるじゃん！ー」

No.4:スポーツテストするじゃん(後書き)

読んで頂きありがとうございます！

N o . 5 : 第 1 種 目 1 0 0 m 走 (前 書 き)

や っ と 種 目 始 ま り ま す !

No.5：第1種目100m走

黄泉川「第1種目は100m走だ！皆呼ばれたら速やかに位置にくしゃん。」

当麻「おっオレは逃げ足だけは速いぞ！」

美琴「じゃあわたしが追いかけてあげましょうか！？」

当麻「いえいえ！」

インデックス「わたしも走らなきゃダメなのかな！？」

当麻「お前は何しにきたんだ！？がく……」

黒子「ふふふ…黒子大チャンスですよ！」

美琴「あーテレポート使う気でしょ！ずるいわよ！」

黒子「ずるくないですよ！オーホホホ！」

ということで、

競技スタート！！

黄泉川「上条14秒9！」

当麻「普通だあー！」

当麻「あれ…一緒に走ってたインデックスは！？」

インデックス「当麻！あの高台にいるお婆さんがオニギリくれたよ
お！」

当麻「ばかつ！早くゴールテープ切ってきなさい！」

アクセラレータ「ベクトル操作…」

ゴウオ！！シュン！！

黄泉川「…！アクセラレータ3秒4。世界新じゃん！」

当麻「新記録だけど、新記録と言っていいのか…？なんかしっくりこない。」

神裂「あの人なかなかやりますね。でも負けません！」

よいいドン！

神裂「はぁぁー！」

ーはっ！この服衝撃に耐えられない…ずれちゃう…嫌ぁー！ー

ゴールテープを七閃で切り、その聖人はトイレまで目に見えない速度でダッシュした。

黒子「ふふ。わたくしなら2回のテレポートでゴール出来ますわ！」

美琴「あの子動揺すると演算でなくなるのよ！アンタやるわよ！」

麦野「わたし！？いつから仲間に…？ってか指図すんじゃないよ！」

結局、面白そうだからと麦野は計画に乗った。

よいいドン！

美琴「くろこおー助けて！襲われちゃう！」

麦野がタックルをし、美琴を地面に倒し背中をとろうとしていた。

黒子「なぁ！…ってレスリングですの…？健全なるスポーツですね。はぁっ！出遅れましたわ…！」

黄泉川「白井7秒2！」

美琴「まあまあね！」

麦野「あんなので良かったのか…！？」

麦野は頭をかしげた。

美琴「次はわたしたちよ！」

と言いつつ美琴は金属の鉄板をゴールの後ろにセットする。

よいドン！

美琴「磁力最大！」

美琴の体が鉄板に、物凄い勢いで引き寄せられる。しかし、ゴウ！
つと光輝く電子線が鉄板を貫いた。

美琴は地面に尻もちを着くことになった。

美琴「いたた…ちょっと何すんのよー！」

麦野「オイ！卑怯な真似してくれるじゃねえか！」

美琴と麦野は取っ組み合いのケンカになった。

結果発表！

1位アクセラレータ：3秒4

2位神裂火織：3秒7

3位白井黒子：7秒2

4位玉置浩二：13秒7

5位ゾウ：14秒5

6位上条当麻14秒9

7位インデックス：2分11秒2

8位御坂美琴：4分45秒4

麦野沈利：同上

10位テレステイナ木原：5分01秒5

ラストオーダー「あの人ね転けて動けなかったんだよってミサカは
ミサカは哀れみの視線を向ける。」

テレステイナ「ふふふ………ぶあゝか…。」

テレステイナの声に元気はなかった。

N o . 5 : 第 1 種 目 1 0 0 m 走 (後 書 き)

読んで頂きありがとうございます！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5762m/>

とある学校でスポーツテスト！

2010年10月11日23時25分発行